

1-3-15-2 市指定・国分寺鐘楼門

〈市指定〉昭和 33 年 9 月 27 日

〈所有者〉国分寺

〈所在地〉総和町 1 丁目 83 番地

〈時代〉安土桃山時代（16 世紀）

〈員数〉1 棟

鐘楼門（1 棟）重層入母屋六脚門、銅平板葺、桁行 3.045m、梁間 2.4m

屋根はもと柿葺こけらぶきであったが、昭和 30 年に銅板葺とした。屋根の軒は 1 つ軒、まだら垂木たるき、妻は木連格子きづれごうし。上層は円柱、簡素で力強い組物を持ち、勾欄こうらんを廻す。下層は角柱 6 本、面取りがある。

梵鐘は永正 11 年（1514）の古銘を存し、もと荒城郷三日町十王堂の鐘であった。宝暦 14 年（1764）大萱村横山作助おおがやが、改鑄して当山に寄進した。

国分寺の晩鐘は飛州 8 景の随一として、国分靈地絶緘塵 雁塔今経幾許春 好是楼前視
聴樂 暮鐘声裏月清新（国分寺の境内は古びた三重塔がそびえ静かである。暮れゆけば鐘
が鳴りわたり、月影清く美しい。）とある。

参考文献

『高山の文化財』47～48 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年